- 高齢化・人口減少が本格化する中で、**農業者の減少や耕作放棄地の拡大が加速化**し、**地域の農地が適切に利用されなくなる**ことが懸念されます。
- 地域計画(10年後の目標地図)の策定により明らかとなった、**受け手のいない農地や集積・集約が進まないといった** 課題はありませんか。
- **新潟県拠点**では、これらの**課題解決につながる県内の取組を取材**し、皆様に**情報提供**していきます。

[お問い合わせ先] 地方参事官室(担い手担当) TEL 025-228-5216

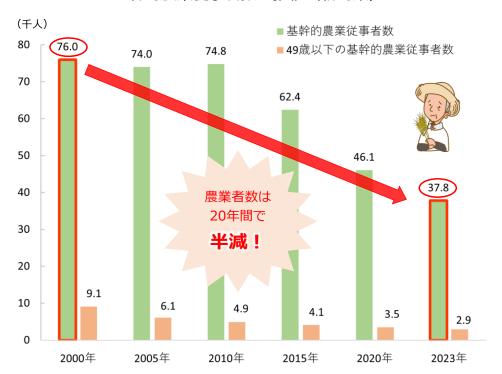
現状

新潟県の基幹的農業従事者数は



2000年から20年間で約76,000人から約37,800人に半減49歳以下の基幹的農業者数は約2,900人まで減少

基幹的農業従事者数の推移(新潟県)



資料:農林水産省「農林業センサス」(2023年のみ「農業構造動態調査」)

課題

20年後に農業の中心となる層(50代以下)は 約5,300人(全体の14%) 著しくアンバランス このままでは将来、農地の維持が困難



地域に人を呼び込むための取組事例や若手農業者の思い、支援について紹介します!

(令和6年12月)

1. 公益財団法人 羽茂農業振興公社(佐渡市)の取組

羽茂農業振興公社では、地域の特産品である<mark>柿</mark>を後世に残すために、高齢等によりリタイアした方の優良柿園地を借り受けて、研修農場として活用し、島内外からの新規就農者の確保・定着に向け、研修から就農後まで手厚くサポート。





佐渡市:運営経費の補助



J A・生産組合等: 複合作物の研修連携





農業に必要な知識や技術だけでなく、 農地や生活面等もサポートします!

職員:柿園地の管理・維持、研修牛への指導

就



収入が不安定な 就農初期を支えます!

就農後



研 修

• 公社が借り受けた柿園地(成園)での研修

1年目:基礎的な栽培研修、複合作物の検討・選定

2年目:実践的な研修、経営管理

• 研修者用の住宅完備









農

新規参入者

• 研修で使用した柿園地ののれん分け

- 優良農地の斡旋
- 農業機械を安くリース(就農後5年間)

【就農実績】(令和6年12月まで)

- ・受け入れた研修生 36名
- ・研修終了後の就農者 26名(就農時の平均年齢43歳) ※うち令和6年12月現在の営農継続者 19名

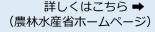


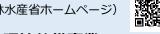
2. 若手農業者に聞きました!

- 農業に人を呼び込むにはどうしたら良いですか?
 - まずは農業に興味を持ってもらうことが重要
 - 旅行ツアー等で、簡単な農作業体験の取組
 - 農業は楽しくカッコいいものだと発信
 - 農産物オーナー制度の導入
- 新規就農者を増やすためにはどうしたら良いですか?
 - 農機具のリースなど、農業がしやすい環境づくりが必要
 - 行政の新規就農制度をもっと周知
 - 親元就農を増やす取組が必要

3. 農林水産省の支援策

_______________(農林水産省 新規就農者育成総合対策のうち





農地の受け手確保に向けた新規就農者誘致環境整備事業

○新規就農者の誘致体制の整備 海粉機関の投稿による効果的は

複数機関の協働による効果的な誘致・支援体制の構築、誘致の 実践、就農前後の方々に対するトータルサポート活動を支援

○研修農場 (※) の整備

実践的な研修を行う研修農場に必要な農業用

機械・設備の導入、施設整備を支援

※JA、県、市町村など関係機関が連携して設立・運営し、就農希望者に対して、就農前の実践的な農作業や研修等を行う圃場。

